

福岡正信「自然が主役、何もしないのが最高の農法」。

受験の神様は、外から見ると、何もしていないように見えて、  
受験の神様の神様たる所以がなにかがわからない。

「生徒が主役、何もしないのが最高の教育」

最小限の指導で、自学自習力を高める

教科書会社は、細部まで書き込まれた学習指導要領に従い、国の意をくんだ教科書を作る。

教科書会社から指導書が出版され、授業で教える教え方が書かれている。それが指導要領の正しい解釈として受けとめられ、我々が見てもおかしい指導方法が現場を支配することも起きてくる。

**問題:** 子供が4人います。1人あたり、3個のミカンをくばりたいです。ミカンは何こいりますか。

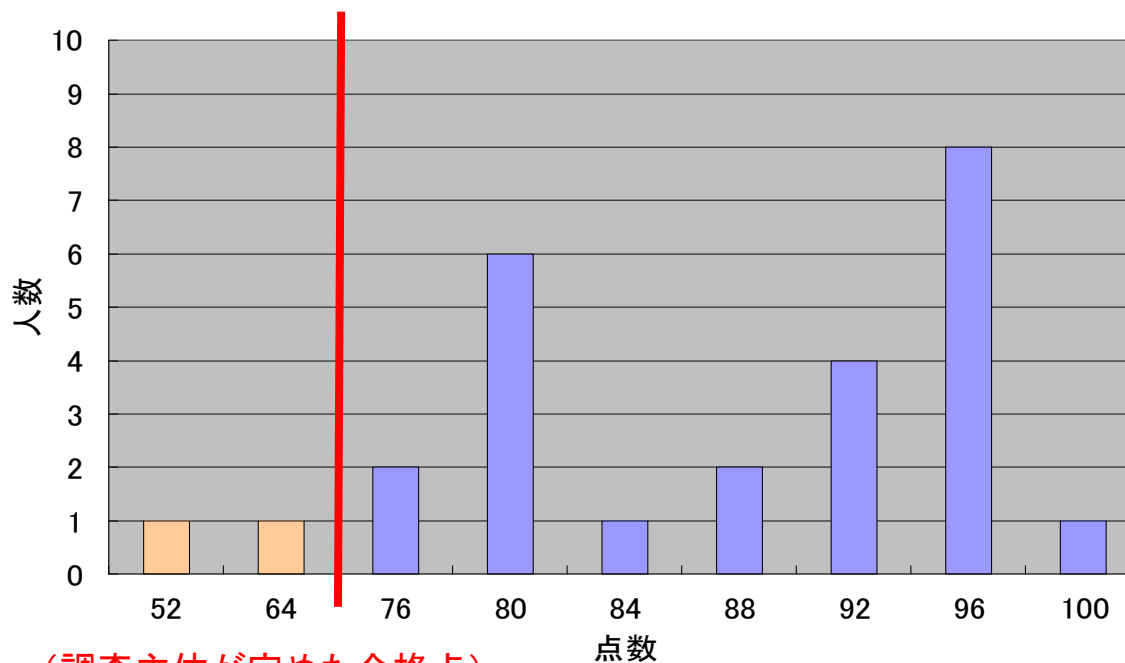
**よくある指導例:**  $3 \times 4 = 12$ が正しく、 $4 \times 3 = 12$ は間違い

最小限の補足を行うことによって、分かる授業に変えていく……指導要領を逸脱することもあり得る

繰り上がり、繰り下がり、割り算など、多くの子が躓くところで、躓かないようにする

高学年で割合の問題が自然に理解できるように、割り算、分数、小数などを、低学年から体系的に教えていく。

## クラスの成績



(調査主体が定めた合格点)

## 4年生全体の算数の成績

	区内の全小学校	公立小学校のクラス
平均点	73.9点	86.31点
達成率	67.7%	92.3%

小学生から大学生まで、近年もっとも欠けているものは・・・読解力

小学生1年生から6年生まで、授業の中で、読解力をつける指導を意識させる。

著者は要するに何を伝えたいのかをわかるようにする。

二大重要目標安心・安全と学力 の徹底

現場にたまに見られる考え方  
安心安全にルールは必要ない  
学力より 元気が一番  
算数より、国語が先

小学校で間違うと 中学校、高等学校の現場がつけを払う。

小学校で良い結果をだすと、大学卒業まで順調に進む。